

温熱化学療法により危機的状況を脱した症例

戸畑共立病院 がん治療センター

垣下ひかる、北村晶子、樋口優子、川崎玲、大田真
森岡文明、鞆田義士、成定宏之、今田肇

症例 1:71 歳男性。肺腺癌 IV 期で、2013 年 12 月より他院で 5 種類のレジメンで化学療法を受けたが、いずれも PD で当院受診。左上葉を占める肺癌、縦隔リンパ節転移、多発肝転移あり。

症例 2:79 歳男性。肺扁平上皮癌 IV 期で、治療適応なしと判断され、本人希望にて当院受診。左上葉に原発があり、多発肝転移、骨転移あり。

2 症例ともに多臓器に転移があるも、温熱療法を中心とした集学的治療を施行したことが、劇的に腫瘍の縮小が認められ、外来での維持治療に移行できたと考えられた。また、PS は 3 から 2 へ改善し患者 QOL 向上に繋がった。化学療法をやり尽くされた癌患者でも、化学放射線治療に温熱療法を併用することで病状の改善に寄与できたと考えられた。